

令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

泉 小学校	重点課題推進校	理数教育 独自カリキュラムの作成
-------	---------	------------------

1 研究の重点と具体的な取組

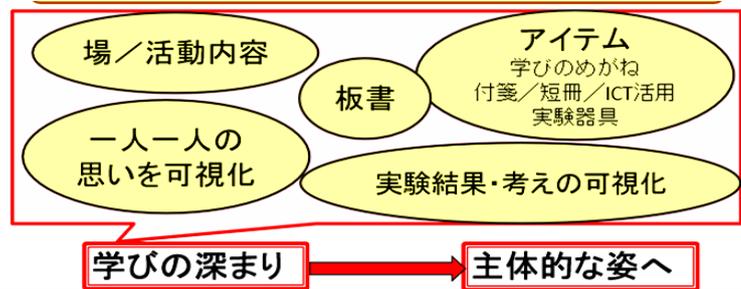
(1) 重点1 自己の成長を自覚するための工夫

学習の中で、児童が「わかった！できた！変わった！」というように、自己の学びを実感したり、成長や変容に気づいたり、自己の良さや可能性を見出したりするといった手応えを感じ、それらが積み重なっていった時に児童の主体的に学びたいという意欲が高まると考え、その工夫や手立てとして、「ふりかえり」を工夫して取り組みを進める。



(2) 重点2 関わり合って学ぶ学習指導の工夫

児童が関わり合って学ぶために、関わり合う場の工夫や教師の働きかけ、学習形態、アイテムの活用等、様々な手立てを大切にして児童が学びを深め、主体的に活動する姿を目指す。



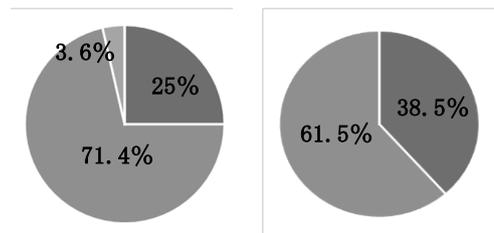
2 取組の検証

(1) 重点1 自己の成長を自覚するための工夫

学校評価における教師アンケートと児童アンケートお結果による検証

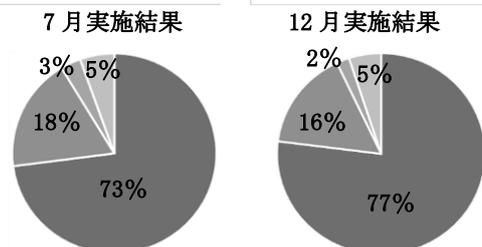
① 教員アンケート

「自己の成長に気づけるよう工夫している」の肯定的評価が、7月 96%から12月 100%に上がった。また、「よくできた」という回答の割合も 25%から 38.5%と高くなった。



② 児童アンケート

「学習でわかったことやできるようになったことがふえた」の肯定的評価が7月・12月共に高く、「とても思う」という回答の割合が7月の73%から12月は77%とさらに高くなった。

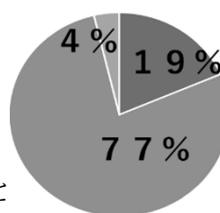


(様式2)

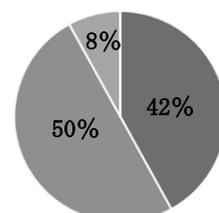
(2) 重点2 関わり合って学ぶ学習指導の工夫

① 教員アンケート

「学び合いの良さを実感できる授業づくりに努めている」の肯定的評価は7月・12月共に90%以上と非常に高かった。さらに、「よくできた」と回答した割合が7月の19%から、12月は42%ととても高くなった。



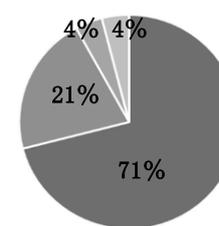
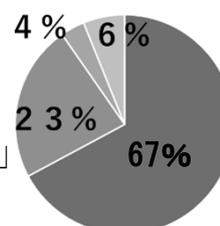
7月実施結果



12月実施結果

③ 児童アンケート

「友達との交流や話し合い活動では、楽しく学ぶことができた」の肯定的評価が7月・12月共に90%以上と非常に高かった。さらに、「よくできた」と回答した割合は7月の67%から12月は71%とさらに高くなった。



3 成果と課題

(1) 重点1 自己の成長を自覚するための工夫

成果

- ・書くことにこだわらない「ふりかえり」を取り入れることで、子ども達の主体性を引き出すことができた。
- ・ワークシートの工夫（1枚に表でまとめる／マッピングで広げる）や、板書の工夫（構造的な板書）、掲示物の工夫（アイテムが増えていく）等「ふりかえり」の方法を工夫することで、児童自身が自己の成長に気づく姿につながるという成果が見られた。
- ・児童自身の自己の成長への気づきや視点を与えた「ふりかえり」の設定が、次の追求課題を発見する姿や、主体的に「～したい」と感じる姿につながっていった。

課題

- ・タイムスケジュールや時間設定の難しさが課題として残った。いつ、どの時間に、どのようなふりかえりを書いていくのか、教師側が見通しをもって、児童の変化が見られると思われる時間を絞り、そこでふりかえりを書く時間を設定する必要がある。

(2) 重点2 関わり合って学ぶ学習指導の工夫

成果

- ・これまでの継続した取り組みにより、児童が自然と見方・考え方を働かせて学びを深めたり、広げたり、表現したりする姿が多く見られるようになった。
- ・教師側の評価と価値付け、関わり合いを大切にした授業作りへの意識の向上や効果的なICT活用により、児童の関わり合いの質が高まり、その良さに気づく児童が増えた。
- ・実験器具やグループ形態、使用するアイテム（付箋・短冊・ボード・ICT・学びのめがね）等の様々な工夫が、児童の活発な関わり合いの姿に結びついた。

課題

- ・教師側の意識の違いにより、取り組み実践に個人差が見られた。共通実践として取り組むために、共通理解の場をより多く設定していくことが必要である。
- ・児童の聴くスキルにも課題が見られた。相手意識の弱さや対話の弱さ、話し合いのスキルの個人差が見られ、深い学びにつながらないグループも見られている。相手意識をもった対話のスキル向上に向けた取り組みが必要である。